

公表

事業所における自己評価結果

事業所名		ああるまつりかレインボーウイング				公表日	令和7年3月14日
	チェック項目	はい	いいえ	工夫している点	課題や改善すべき点		
環境・体制整備	1	利用定員が発達支援室等のスペースとの関係で適切であるか。	6		広い空間で身体を動かす活動ができている	広いスペースを使っているが、活動によってはグループ分けを行っている	
	2	利用定員やこどもの状態等に対して、職員の配置数は適切であるか。	6		適切である		
	3	生活空間は、こどもにわかりやすく構造化された環境になっているか。また、事業所の設備等は、障害の特性に応じ、バリアフリー化や情報伝達等、環境上の配慮が適切になされているか。	6		階段昇降時は必ず指導員を配置している	今後も外階段を利用するときは、必ず指導員を配置し、利用時の注意点を共有していく	
	4	生活空間は、清潔で、心地よく過ごせる環境になっているか。また、こども達の活動に合わせた空間となっているか。	6		毎日掃除をしている 荷物は常に片づけ、活動中に気が散らないように工夫している		
	5	必要に応じて、こどもが個別の部屋や場所を使用することが認められる環境になっているか。	6		個別対応が必要な場合は、落ち着いた場所や環境で対応している		
業務改善	6	業務改善を進めるためのPDCA サイクル（目標設定と振り返り）に、広く職員が参画しているか。	6		職員一人一人が目標を設定し、振り返りや自己評価を行い、会議で共有している	今後も日々の振り返りを大切にし、業務改善に努めていく	
	7	保護者向け評価表により、保護者等の意向等を把握する機会を設けており、その内容を業務改善につなげているか。	6		保護者の意向を聞き、その都度改善に繋げている		
	8	職員の意見等を把握する機会を設けており、その内容を業務改善につなげているか。	6		会議や職員面談等で職員の意見を聞き、常に改善に繋げている	会議や職員面談以外にも日頃から意見を言いやすい雰囲気を作っていく	
	9	第三者による外部評価を行い、評価結果を業務改善につなげているか。	6		実施している		
	10	職員の資質の向上を図るために、研修を受講する機会や法人内等で研修を開催する機会が確保されているか。	6		会社全体で定期的に研修を開催している 毎月の会議で勉強会を開催している		
適切な支援の提供	11	適切に支援プログラムが作成、公表されているか。	6		支援プログラムが重ならないように、表にして管理し、おたより等で公表している		
	12	個々のこどもに対してアセスメントを適切に行い、こどもと保護者のニーズや課題を客観的に分析した上で、放課後等デイサービス計画を作成しているか。	6		面談時にアセスメントを行い、保護者のニーズをや課題を会議等で共有、支援計画に反映させている	今後も保護者のニーズを把握し、支援に反映させていけるように務めていく	
	13	放課後等デイサービス計画を作成する際には、児童発達支援管理責任者だけでなく、こどもの支援に関わる職員が共通理解の下で、こどもの最善の利益を考慮した検討が行われているか。	6		職員全体で児童の共有をし、プログラムを立てている	今後も策定会議等でこどもの支援について共通理解をしていけるように努めていく	
	14	放課後等デイサービス計画が職員間に共有され、計画に沿った支援が行われているか。	6		個別支援計画は職員に周知し、支援計画に沿った対応を行っている	個別支援計画を元に月の支援内容を決めて取り組んでいる	
	15	こどもの適応行動の状況を、標準化されたツールを用いたフォーマルなアセスメントや、日々の行動観察なども含むインフォーマルなアセスメントを使用する等により確認しているか。	6		面談時のアセスメント、日々の行動観察の記録を常に共有している		
	16	放課後等デイサービス計画には、放課後等デイサービスガイドラインの「放課後等デイサービスの提供すべき支援」の「本人支援」、「家族支援」、「移行支援」及び「地域支援・地域連携」のねらい及び支援内容も踏まえながら、こどもの支援に必要な項目が適切に設定され、その上で、具体的な支援内容が設定されているか。	6		個別支援計画に本人支援、家族支援、地域連携支援のねらいや支援内容を組み入れそれをもとに月の支援内容を設定している		
	17	活動プログラムの立案をチームで行っているか。	6		職員間で話し合い、支援内容に沿った活動の立案を行っている	取り組んだ内容を記録し、職員間で振り返りを行い、チームでの連携を強化していく	
	18	活動プログラムが固定化しないよう工夫しているか。	6		毎月活動プログラムを立てている	活動内容を会報にも載せ、保護者の方にも周知し、固定化しないように検討している	

公表

事業所における自己評価結果

事業所名		ああるまつりかレインボーウイング				公表日	令和7年3月14日
	チェック項目	はい	いいえ	工夫している点	課題や改善すべき点		
	19	こどもの状況に応じて、個別活動と集団活動を適宜組み合わせ放課後等デイサービス計画を作成し、支援が行われているか。	6		子どもの状況に応じて個別活動や集団活動を組み入れて支援している	その都度、子どもの状況に応じて対応していく	
	20	支援開始前には職員間で必ず打合せを行い、その日行われる支援の内容や役割分担について確認し、チームで連携して支援を行っているか。	6		毎日活動前にミーティングをし、職員間で連携をとりながら支援を行っている		
	21	支援終了後には、職員間で必ず打合せを行い、その日行われた支援の振り返りを行い、気付いた点等を共有しているか。	6		支援終了後にすぐに振り返りができない場合は気付いた点等を連絡ツールで伝え合っている	今後も職員全体でこどもの様子を理解できるように、記録や連絡アプリ等で共有していく	
	22	日々の支援に関して記録をとることを徹底し、支援の検証・改善につなげているか。	6		毎日必ず個別記録を記入している	特別な変化があった時は、記録だけでなく必ず共有している	
	23	定期的にモニタリングを行い、放課後等デイサービス計画の見直しの必要性を判断し、適切な見直しを行っているか。	6		会議で話し合いをしている		
	24	放課後等デイサービスガイドラインの「4つの基本活動」を複数組み合わせ支援を行っているか。	6		4つの基本活動を意識して支援を行っている		
	25	こどもが自己選択できるような支援の工夫がされている等、自己決定をする力を育てるための支援を行っているか。	6		自分で決めることや、自分で選ぶことを促し活動内容に組み入れている	今後も自分で選んで進める活動等を取り入れていく	
関係機関や保護者との連携	26	障害児相談支援事業所のサービス担当者会議や関係機関との会議に、そのこどもの状況をよく理解した者が参画しているか。	6		児発管の他、日々関わりのある職員や長く関わって来た職員が参画している		
	27	地域の保健、医療（主治医や協力医療機関等）、障害福祉、保育、教育等の関係機関と連携して支援を行う体制を整えているか。	6		連携の体勢を整えている		
	28	学校との情報共有（年間計画・行事予定等の交換、こどもの下校時刻の確認等）、連絡調整（送迎時の対応、トラブル発生時の連絡）を適切に行っているか。	6		送迎時等に申し送りを受けている	必要に応じてケア会議を行うこともある	
	29	就学前に利用していた保育所や幼稚園、認定こども園、児童発達支援事業所等との間で情報共有と相互理解に努めているか。	6		対象児童がいる場合は必ず情報共有している	今後もより良い支援を継続して行けるように必ず共有していく	
	30	学校を卒業し、放課後等デイサービスから障害福祉サービス事業所等へ移行する場合、それまでの支援内容等の情報を提供する等しているか。	6		利用対象が小学6年生までの為、中学生から他の放デイへ移行する場合は、必ず情報提供をしている	今後も相談支援員等と協力し、スムーズに移行していけるように努めていく	
	31	地域の児童発達支援センターとの連携を図り、必要等に応じてスーパーバイズや助言や研修を受ける機会を設けているか。	6		地域の支援センターと常に連絡を取り合っている 地域の研修に参加している		
	32	放課後児童クラブや児童館との交流や、地域の他のこどもと活動する機会があるか。	3	3	イベント等の交流機会を設けていないが、地域の公園での活動で交流することがある	今後、地域との交流を増やしていけるように検討していく	
	33	（自立支援）協議会等へ積極的に参加しているか。	6		内容によって参加を検討している		
	34	日頃からこどもの状況を保護者と伝え合い、こどもの発達の状況や課題について共通理解を持っているか。	6		連絡アプリや送迎時、面談を通して共通理解を持てるようにしてる	保護者との共通理解は基本なので、何かあれば必ず連絡を取り合うようにしている	
	35	家族の対応力の向上を図る観点から、家族に対して家族支援プログラム（ペアレント・トレーニング等）や家族等の参加できる研修の機会や情報提供等を行っているか。	6		面談時等に困りごとに対しての具体的な対応を伝えている 父母会等で支援について伝えている	困りごとに対しての対応の仕方以外にも、褒め方・伝わりやすい話し方などを保護者の方に伝えていく	
	36	運営規程、支援プログラム、利用者負担等について丁寧な説明を行っているか。	6		契約時に重要事項説明書で必ず保護者に説明している	今後も分かりやすい説明を心がけていく	
	37	放課後等デイサービス提供を作成する際には、こどもや保護者の意思の尊重、こどもの最善の利益の優先考慮の観点を踏まえて、こどもや家族の意向を確認する機会を設けているか。	6		子どもの意思は常に聞くようにし、送迎時や面談等で家族の意向を聞く機会を設けている	今後も保護者や子どもが話しやすいような雰囲気づくりを心がけていく	

公表

事業所における自己評価結果

事業所名		ああるまつりかレインボーウイング		公表日 令和7年3月14日		
		チェック項目	はい	いいえ	工夫している点	課題や改善すべき点
保護者への説明等	38	「放課後等デイサービス計画」を示しながら支援内容の説明を行い、保護者から放課後等デイサービス計画の同意を得ているか。	6		必ず説明し、保護者からの同意を得ている	
	39	家族等からの子育ての悩み等に対する相談に適切に応じ、面談や必要な助言と支援を行っているか。	6		相談があった場合には迅速な対応を心掛け、必要な場合には面談を行っている	今後も迅速な対応を心がけていく
	40	父母の会の活動を支援することや、保護者会等を開催する等により、保護者同士で交流する機会を設ける等の支援をしているか。また、きょうだい同士で交流する機会を設ける等の支援をしているか。	6		交流会を開催し、保護者同士の親睦を深めた	今年度は2回開催 きょうだいの参加できる催しは開催できていないので検討していく
	41	こどもや保護者からの苦情について、対応の体制を整備するとともに、こどもや保護者に周知し、苦情があった場合に迅速かつ適切に対応しているか。	6		苦情解決体制はあり、契約時に契約時に保護者にしている。大きな苦情はこれまでに至っていない。	
	42	定期的に通信等を発行することや、HPやSNS等を活用することにより、活動概要や行事予定、連絡体制等の情報をこどもや保護者に対して発信しているか。	6		月に一度、会報を発行している	
	43	個人情報の取扱いに十分留意しているか。	6		十分留意している	新しく入る職員へ研修等で伝えていく
	44	障害のあるこどもや保護者との意思の疎通や情報伝達のための配慮をしているか。	6		児童へ常に配慮している	保護者は現状非該当
	45	事業所の行事に地域住民を招待する等、地域に開かれた事業運営を図っているか。	3	3		今後検討していく
非常時等の対応	46	事故防止マニュアル、緊急時対応マニュアル、防犯マニュアル、感染症対応マニュアル等を策定し、職員や家族等に周知するとともに、発生を想定した訓練を実施しているか。	6		マニュアルを策定し周知している 発生を想定した訓練を行い記録している	
	47	業務継続計画（BCP）を策定するとともに、非常災害の発生に備え、定期的に避難、救出その他必要な訓練を行っているか。	6		BCPを策定し、非常災害に備えて定期的に避難訓練等を行っている	
	48	事前に、服薬や予防接種、てんかん発作等のこどもの状況を確認しているか。	6		毎朝の連絡アプリで児童の健康状態を確認し服薬、予防接種等の状況も確認している (てんかん発作の児童はなし)	
	49	食物アレルギーのあるこどもについて、医師の指示書に基づく対応がされているか。	6		契約時に必ず確認している	
	50	安全計画を作成し、安全管理に必要な研修や訓練、その他必要な措置を講じる等、安全管理が十分された中で支援が行われているか。	6		安全計画を作成し避難訓練や研修を行い、記録している	
	51	こどもの安全確保に関して、家族等との連携が図られるよう、安全計画に基づく取組内容について、家族等へ周知しているか。	6		契約時に必ず確認し、取り組み内容については連絡アプリで周知している	
	52	ヒヤリハットを事業所内で共有し、再発防止に向けた方策について検討をしているか。	6		ヒヤリハットはすぐに共有、毎月の会議でも共有している	月ごとにまとめ、よりヒヤリハットを出せるような視点を持てるように会議で話合っている
	53	虐待を防止するため、職員の研修機会を確保する等、適切な対応をしているか。	6		必ず研修を行っている	
54	どのような場合にやむを得ず身体拘束を行うかについて、組織的に決定し、こどもや保護者に事前に十分に説明し了解を得た上で、放課後等デイサービス計画に記載しているか。	6		契約時に説明している	身体拘束の該当なし	